

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 22年 10月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個々に応じて、起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。また、地域・施設内の行事に参加することによって地域にとけこんで来ている。  
季節感を味わっていただけるよう、毎月外出、外食を計画し取り組んでいる。また、毎月の誕生会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなど利用者さんを楽しい時間を過ごしていただいている。  
地域の方にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。また、地域の独居の方にも楽しい時間を過ごして頂ける場も提供して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民との関わりを大切に理念を掲げ、ケアの向上に活かしている。地域の運動会に参加したり、公民館を借りて吹奏楽や伊予漫才を地域のみなさんと楽しんでいる。また、ホームの庭を開放し、中山町物産展を開き地域のみなさんとの交流を行っている。周辺の安全な場所やホーム内の庭を散歩したり、ホームの車で季節に応じてイチゴ狩りや菊花展などに出かけて楽しんでいる。主治医は週に1回往診に訪れ、24時間体制で連携をとり定期的な健診も実施するなど健康管理に努めている。広いリハビリ室では各人に合わせたリハビリを行い、健康維持、向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 西岡 明美

評価完了日 平成 22 年 10 月 28 日

(別表第1)

**自己評価及び外部評価表**

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で共に暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 「地域の中で個人を尊重し、その人らしい生活を支援します。地域の中で共に暮らしていけるよう支援します。」を各ユニットに掲げ、毎月開催される3ユニット合同のミーティング時に、話し合っ共有しつつ、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事（夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等）に参加し、また施設行事にも地域に声をかけ参加してもらい地域と事業所（利用者）のつながりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話でも地域との交流は日常的にできている。	
			(外部評価) 自治会に入会しており、回覧板等で情報を得ている。公民館を借りて吹奏楽の音楽会や伊予漫才など催したり、ホームの庭で中山町物産展を開き、地域の人たちとふれあう行事を行っている。また、町内の運動会に参加したり、職員がみこし担ぎに加わり地域との交流も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、地域の駐在さん、他のグループホームの方また家族の方にも参加していただいております、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回開催している。市担当者、地域包括支援センター、地域代表者、他のグループホーム職員、利用者、家族、職員、テーマによっては消防署、交番など、多数の出席を得て開催している。ホームから近況報告を行い、出席者からは質問や要望が出されている。外部評価についても開示し、協力を得るように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に、参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くよう取り組んでいる。また、地域包括支援センター主催の健康相談に参加するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者との連携や話し合いは、運営推進会議などでも十分行われている。事故報告などの書類提出はその都度行い、情報の共有に努めている。生活保護受給者もおり、生活福祉課の担当者が訪ねてくれるので、その際には生活面の様子を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてマニュアルを作成し職員皆が充分理解をした上で、身体拘束しないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方への説明を行い、理解をいただいた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について勉強会を行い、十分理解した上で支援にあたっている。利用者一人ひとりを見守る姿勢を大切にし、安全な生活を確保しながら自由な暮らしができるよう支援している。帰宅願望のある利用者には、職員と一緒に気分が収まるまで外回りを散歩して、支援に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆、理解しており必要であれば、活用できる体制にあるが、現在の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会がない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決できるよう努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。 (外部評価) 年2回の家族会や利用者への面会の際に情報交換をしたり要望を聴きとるよう努めている。内外に相談窓口を設け、玄関に意見箱を備えている。月に1回発行している「アトラス馬木便り」と、各人の生活の様子や健康状態を記載した手紙を家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間でのミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書を書いてもらい、皆で検討し、改善に努めている。  (外部評価) 代表者は月に1～2回ホームを訪れ、利用者、職員と昼食をとりながらコミュニケーションを図っている。4か月に1回、代表者を交えた食事会を持ち、その際にも意見を伝えている。毎月のミーティング時に職員は意見を述べ合い、管理者は意見を総括して代表者に伝え、運営の質向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり、地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員それぞれが資格取得に努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームの企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワークづくり相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安な事、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得していただいた上で信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応が出来る体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いがある際は別のサービスがあることを知らせ、相談にのっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支えたりして、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告して理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望や意見を聞き入れ、外出先を選んだり、また個人的にも出来る限り望みが叶えられるよう支援している。歌や物事でもなじみの支援に努めている。  (外部評価) 馴染みの美容室に家族と同行してもらったり、近くのスーパーに買い物に行った時は声をかけてもらっている。利用者が入居するまでに培ってきたかけがえのない関係が途切れることがないように努めているが、少し離れた地域からの利用者が多く関係継続には苦慮している。	利用者は継続的に会っている人とは信頼関係が生まれ、心を開き、そこに大きな喜びと楽しみを得ることができる。定期的に傾聴ボランティアの導入を検討する等、新しい馴染みの関係づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何らかのトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出きるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医療機関に行かれた際においても面会に行くなどしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。  (外部評価) 優しく名前呼びかけながら食事時や入浴時、散歩時などの何気ない会話の中で、思いや意向を聴き取っている。また話ができない利用者からは、表情から思いを感じ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されたからの生活に反映していけるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたい時はゆっくりしていただき、食事、入浴等出来る事はしていただいている。また、その日の変化に気付き対応できるよう努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活ができるよう計画作成している。状態の変化に伴わない計画の立て直しをしている。  (外部評価) 各人の身体的状況や生活の様子が詳細に記録されており、毎月のユニット会議で全職員が意見を出し合い、ケアマネ、管理者、担当職員で会議を開き、介護計画を作成している。基本的には3か月ごとの見直しを行うが、状態変化によっては柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験しよるこびや楽しさを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、定期健診や必要に応 じた受診を行っている。本人及び家族の意見や希望を 尊重し、かかりつけ医による継続的な医療を受けられ るよう支援している。  (外部評価) 主治医は週に1回往診に訪れ、24時間体制で連携を とっている。定期的な健診を実施し、健診結果は家族 に送付している。歯科医は往診が可能でその他の専門 医に関しては、主治医の指示に従い受診支援をしてい る。結核、インフルエンザなどの感染症に関しては、 主治医の指導の下、十分な対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際は、小まめに面会に行くなど安 心していただけるよう対応し、家族と相談しながらま た早期退院に向けて病院関係者（医師、看護師）との 情報交換、相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期について、また重度化した場合につ いての話し合いを行っており、職員全員に習知してい る。終末期のあり方について、本人家族の希望を聞き、 施設で出来る事を医療機関とも相談し、チーム全 体で支援に取り組んでいる。  (外部評価) 重度化、終末期ケアに関しては、ホームでの支援が可 能であることを入居時に説明をしている。看取りが必 要になった場合には再度確認のうえ、同意書を得て家 族を含めた関係者で方針を共有している。またその際 にはマニュアルに沿って職員の学習を行い、ケアに当 たるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し、実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練などを行っており職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方にも、避難訓練に参加していただき、災害時の協力はお願いしている。  (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の指導の下、夜間想定で実施している。火災報知器、緊急警報装置、スプリンクラーを設置している。職員の緊急連絡網を作成しているが、連絡の訓練を実施していない。	緊急時に備えて緊急連絡網で迅速、確実に連絡ができるよう定期的に訓練を行っておくことが望まれる。台所の食器棚などの家具類をしっかりと固定しておくなど、地震対策を講じておくことが望まれる。地域の自主防災組織と連携をとり、実践的な避難訓練に参加してもらうよう、協力体制を築くことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。  (外部評価) 個人情報保護法について、職員は学習を行いその大切さを十分認識している。トイレ誘導等のプライバシーに関わることはさりげなく声かけするよう心がけ、プライドを傷つけることのないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、なじみの装いができるよう心がけている。また、ネイルサロンを開くなどおしゃれを楽しんでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞きメニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんでいただけるよう配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。  (外部評価) 食前、食後の手伝いをしている利用者もおり、職員は無理なくしてもらおうよう配慮している。食事介助が必要な利用者には、さりげなく支援を行っている。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気づくりができています。栄養士が献立をたて、利用者によっては体調に合わせて食事摂取量を考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じ刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し週に3回の消毒も行っている。口腔予防の為、洗口液を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>1人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立にむけた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については、時間ごとの交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各人の排泄記録が詳細に記録されており、トイレ誘導はさりげなく行われる等状態に合った支援が行われている。また、尿量を測定し排泄ケアに反映する等、根拠に基づいた支援ができています。便秘がちな人にはセンナ茶を飲むなど、できる限り自然な排便ができるよう取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合やすよう配慮している。また、気持ちのよい入浴を楽しめるよう心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的には週に3回の入浴支援を行っている。入浴の苦手な利用者に対しては、タイミングを見計らって入浴をしてもらうよう努めている。特殊浴槽を使用する利用者もおり、状態に合わせた入浴支援が行えている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個人の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを作成し、職員皆が習知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用等は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来る事出来ない事を把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、トランプをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所はそれぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会にも参加したりしている。	
			(外部評価) ホーム周辺の安全な場所やホーム内の庭を散歩し、気分転換を図っている。近くのコンビニに買い物に出かける利用者もいる。年間の外出計画を立てており、ホームの車で外食したり、季節に応じていちご狩りや菊花展などに出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しい物があれば購入できるよう支援している。現在、お金は施設管理にしており所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望の応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、めだかを飼ったりして生活感、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居間には季節を感じさせる手作りの作品が飾られ、手作りの大きな日めくりカレンダーを置いて、時の見当識に役立っている。ソファでゆったりと自由に寛いだり、テレビを楽しめるように工夫している。広いリハビリ室では利用者の機能の維持、向上ができるよう器具が揃えられている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごしていただいている。利用者同士で、仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人のなじみの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗無く生活していただけるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) ベッドと整理ダンスはホーム備え付けであるが、思いおもいの使い慣れた馴染みの調度品や置物、時計、カレンダーを持ち込み、自分の部屋らしく居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るよう環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 22年 10月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個々に応じて、起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。また、地域・施設内の行事に参加することによって地域にとけこんで来ている。  
季節感を味わっていただけるよう、毎月外出、外食を計画し取り組んでいる。また、毎月の誕生会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなど利用者さんを楽しい時間を過ごしていただいている。  
地域の方にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。また、地域の独居の方にも楽しい時間を過ごして頂ける場も提供して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民との関わりを大切にしたい理念を掲げ、ケアの向上に活かしている。地域の運動会に参加したり、公民館を借りて吹奏楽や伊予漫才を地域のみなさんと楽しんでいる。また、ホームの庭を開放し、中山町物産展を開き地域のみなさんとの交流を行っている。周辺の安全な場所やホーム内の庭を散歩したり、ホームの車で季節に応じてイチゴ狩りや菊花展などに出かけて楽しんでいる。主治医は週に1回往診に訪れ、24時間体制で連携をとり定期的な健診も実施するなど健康管理に努めている。広いリハビリ室では各人に合わせたリハビリを行い、健康維持、向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 山口 久美

評価完了日 平成22年 10月 28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で共に暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 「地域の中で個人を尊重し、その人らしい生活を支援します。地域の中で共に暮らしていけるよう支援します。」を各ユニットに掲げ、毎月開催される3ユニット合同のミーティング時に、話し合っ共有しつつ、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事（夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等）に参加し、また施設行事にも地域に声をかけ参加してもらい地域と事業所（利用者）のつながりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話でも地域との交流は日常的にできている。	
			(外部評価) 自治会に入会しており、回覧板等で情報を得ている。公民館を借りて吹奏楽の音楽会や伊予漫才など催したり、ホームの庭で中山町物産展を開き、地域の人たちとふれあう行事を行っている。また、町内の運動会に参加したり、職員がみこし担ぎに加わり地域との交流も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、地域の駐在さん、他のグループホームの方また家族の方にも参加していただいております、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回開催している。市担当者、地域包括支援センター、地域代表者、他のグループホーム職員、利用者、家族、職員、テーマによっては消防署、交番など、多数の出席を得て開催している。ホームから近況報告を行い、出席者からは質問や要望が出されている。外部評価についても開示し、協力を得るように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に、参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くよう取り組んでいる。また、地域包括支援センター主催の健康相談に参加するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者との連携や話し合いは、運営推進会議などでも十分行われている。事故報告などの書類提出はその都度行い、情報の共有に努めている。生活保護受給者もおり、生活福祉課の担当者が訪ねてくれるので、その際には生活面の様子を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてマニュアルを作成し職員皆が充分理解をした上で、身体拘束しないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方への説明を行い、理解をいただいた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について勉強会を行い、十分理解した上で支援にあたっている。利用者一人ひとりを見守る姿勢を大切にし、安全な生活を確保しながら自由な暮らしができるよう支援している。帰宅願望のある利用者には、職員と一緒に気分が収まるまで外回りを散歩して、支援に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆、理解しており必要であれば、活用できる体制にあるが、現在の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会がない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決できるよう努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。 (外部評価) 年2回の家族会や利用者への面会の際に情報交換をしたり要望を聴きとるよう努めている。内外に相談窓口を設け、玄関に意見箱を備えている。月に1回発行している「アトラス馬木便り」と、各人の生活の様子や健康状態を記載した手紙を家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に職員間でのミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書を書いてもらい、皆で検討し、改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 代表者は月に1～2回ホームを訪れ、利用者、職員と昼食をとりながらコミュニケーションを図っている。4か月に1回、代表者を交えた食事会を持ち、その際にも意見を伝えている。毎月のミーティング時に職員は意見を述べ合い、管理者は意見を総括して代表者に伝え、運営の質向上に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり、地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員それぞれが資格取得に努力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のグループホームの企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワークづくり相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安な事、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得していただいた上で信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応が出来る体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いがある際は別のサービスがあることを知らせ、相談にのっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支えたりして、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告して理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望や意見を聞き入れ、外出先を選んだり、また個人的にも出来る限り望みが叶えられるよう支援している。歌や物事でもなじみの支援に努めている。  (外部評価) 馴染みの美容室に家族と同行してもらったり、近くのスーパーに買い物に行った時は声をかけてもらっている。利用者が入居するまでに培ってきたかけがえのない関係が途切れることがないように努めているが、少し離れた地域からの利用者が多く関係継続には苦慮している。	利用者は継続的に会っている人とは信頼関係が生まれ、心を開き、そこに大きな喜びと楽しみを得ることができる。定期的に傾聴ボランティアの導入を検討する等、新しい馴染みの関係づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何らかのトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出きるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医療機関に行かれた際においても面会に行くなどしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。  (外部評価) 優しく名前呼びかけながら食事時や入浴時、散歩時などの何気ない会話の中で、思いや意向を聴き取っている。また話ができない利用者からは、表情から思いを感じ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されたからの生活に反映していけるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたい時はゆっくりしていただき、食事、入浴等出来る事はしていただいている。また、その日の変化に気付き対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活ができるよう計画作成している。状態の変化に伴わない計画の立て直しをしている。  (外部評価) 各人の身体的状況や生活の様子が詳細に記録されており、毎月のユニット会議で全職員が意見を出し合い、ケアマネ、管理者、担当職員で会議を開き、介護計画を作成している。基本的には3か月ごとの見直しを行うが、状態変化によっては柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験しよるこびや楽しさを感じることが出来ている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、定期健診や必要に応 じた受診を行っている。本人及び家族の意見や希望を 尊重し、かかりつけ医による継続的な医療を受けられ るよう支援している。	
			(外部評価) 主治医は週に1回往診に訪れ、24時間体制で連携を とっている。定期的な健診を実施し、健診結果は家族 に送付している。歯科医は往診が可能でその他の専門 医に関しては、主治医の指示に従い受診支援をしてい る。結核、インフルエンザなどの感染症に関しては、 主治医の指導の下、十分な対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際は、小まめに面会に行くなど安 心していただけるよう対応し、家族と相談しながらま た早期退院に向けて病院関係者（医師、看護師）との 情報交換、相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期について、また重度化した場合につ いての話し合いを行っており、職員全員に習知してい る。終末期のあり方について、本人家族の希望を聞き、 施設で出来る事を医療機関とも相談し、チーム全 体で支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 重度化、終末期ケアに関しては、ホームでの支援が可 能であることを入居時に説明をしている。看取りが必 要になった場合には再度確認のうえ、同意書を得て家 族を含めた関係者で方針を共有している。またその際 にはマニュアルに沿って職員の学習を行い、ケアに当 たるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し、実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練などを行っており職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方にも、避難訓練に参加していただき、災害時の協力はお願いしている。  (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の指導の下、夜間想定で実施している。火災報知器、緊急警報装置、スプリンクラーを設置している。職員の緊急連絡網を作成しているが、連絡の訓練を実施していない。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。  (外部評価) 個人情報保護法について、職員は学習を行いその大切さを十分認識している。トイレ誘導等のプライバシーに関わることはさりげなく声かけするよう心がけ、プライドを傷つけることのないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、なじみの装いができるよう心がけている。また、ネイルサロンを開くなどおしゃれを楽しんでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞きメニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんでいただけるよう配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。  (外部評価) 食前、食後の手伝いをしている利用者もおり、職員は無理なくしてもらおうよう配慮している。食事介助が必要な利用者には、さりげなく支援を行っている。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気づくりができています。栄養士が献立をたて、利用者によっては体調に合わせて食事摂取量を考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じ刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し週に3回の消毒も行っている。口腔予防の為、洗口液を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>1人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立にむけた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については、時間ごとの交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各人の排泄記録が詳細に記録されており、トイレ誘導はさりげなく行われる等状態に合った支援が行われている。また、尿量を測定し排泄ケアに反映する等、根拠に基づいた支援ができています。便秘がちな人にはセンナ茶を飲むなど、できる限り自然な排便ができるよう取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合やすよう配慮している。また、気持ちのよい入浴を楽しめるよう心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的には週に3回の入浴支援を行っている。入浴の苦手な利用者に対しては、タイミングを見計らって入浴をしてもらうよう努めている。特殊浴槽を使用する利用者もおり、状態に合わせた入浴支援が行えている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個人の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを作成し、職員皆が習知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用等は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来る事出来ない事を把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、トランプをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所はそれぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会にも参加したりしている。 (外部評価) ホーム周辺の安全な場所やホーム内の庭を散歩し、気分転換を図っている。近くのコンビニに買い物に出かける利用者もいる。年間の外出計画を立てており、ホームの車で外食したり、季節に応じていちご狩りや菊花展などに出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しい物があれば購入できるよう支援している。現在、お金は施設管理にしており所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望の応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、めだかを飼ったりして生活感、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居間には季節を感じさせる手作りの作品が飾られ、手作りの大きな日めくりカレンダーを置いて、時の見当識に役立っている。ソファでゆったりと自由に寛いだり、テレビを楽しめるように工夫している。広いリハビリ室では利用者の機能の維持、向上ができるよう器具が揃えられている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごしていただいている。利用者同士で、仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人のなじみの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗無く生活していただけるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) ベッドと整理ダンスはホーム備え付けであるが、思いおもいの使い慣れた馴染みの調度品や置物、時計、カレンダーを持ち込み、自分の部屋らしく居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るよう環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 22年 10月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個々に応じて、起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。また、地域・施設内の行事に参加することによって地域にとけこんで来ている。  
季節感を味わっていただけるよう、毎月外出、外食を計画し取り組んでいる。また、毎月の誕生会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなど利用者さんを楽しい時間を過ごしていただいている。  
地域の方にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。また、地域の独居の方にも楽しい時間を過ごして頂ける場も提供して行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民との関わりを大切にしたい理念を掲げ、ケアの向上に活かしている。地域の運動会に参加したり、公民館を借りて吹奏楽や伊予漫才を地域のみなさんと楽しんでいる。また、ホームの庭を開放し、中山町物産展を開き地域のみなさんとの交流を行っている。周辺の安全な場所やホーム内の庭を散歩したり、ホームの車で季節に応じてイチゴ狩りや菊花展などに出かけて楽しんでいる。主治医は週に1回往診に訪れ、24時間体制で連携をとり定期的な健診も実施するなど健康管理に努めている。広いリハビリ室では各人に合わせたリハビリを行い、健康維持、向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Cユニット

記入者(管理者)

氏名 嶋之内 孝江

評価完了日 平成22年 10月 28日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で共に暮らしていける事、その人らしい生活を送れる事を理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。	
			(外部評価) 「地域の中で個人を尊重し、その人らしい生活を支援します。地域の中で共に暮らしていけるよう支援します。」を各ユニットに掲げ、毎月開催される3ユニット合同のミーティング時に、話し合っ共有しつつ、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事（夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等）に参加し、また施設行事にも地域に声をかけ参加してもらい地域と事業所（利用者）のつながりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話でも地域との交流は日常的にできている。	
			(外部評価) 自治会に入会しており、回覧板等で情報を得ている。公民館を借りて吹奏楽の音楽会や伊予漫才など催したり、ホームの庭で中山町物産展を開き、地域の人たちとふれあう行事を行っている。また、町内の運動会に参加したり、職員がみこし担ぎに加わり地域との交流も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課の方、地域の駐在さん、他のグループホームの方また家族の方にも参加していただいております、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回開催している。市担当者、地域包括支援センター、地域代表者、他のグループホーム職員、利用者、家族、職員、テーマによっては消防署、交番など、多数の出席を得て開催している。ホームから近況報告を行い、出席者からは質問や要望が出されている。外部評価についても開示し、協力を得るように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に、参加していただき、新しい情報を提供していただきながら協力関係を築くよう取り組んでいる。また、地域包括支援センター主催の健康相談に参加するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者との連携や話し合いは、運営推進会議などでも十分行われている。事故報告などの書類提出はその都度行い、情報の共有に努めている。生活保護受給者もおり、生活福祉課の担当者が訪ねてくれるので、その際には生活面の様子を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてマニュアルを作成し職員皆が充分理解をした上で、身体拘束しないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族の方への説明を行い、理解をいただいた上で期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について勉強会を行い、十分理解した上で支援にあたっている。利用者一人ひとりを見守る姿勢を大切にし、安全な生活を確保しながら自由な暮らしができるよう支援している。帰宅願望のある利用者には、職員と一緒に気分が収まるまで外回りを散歩して、支援に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆、理解しており必要であれば、活用できる体制にあるが、現在の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安訴えを聞き、家族の理解、納得を得た上で契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会がない方もあり全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情等の声に対して解決できるよう努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。 (外部評価) 年2回の家族会や利用者への面会の際に情報交換をしたり要望を聴きとるよう努めている。内外に相談窓口を設け、玄関に意見箱を備えている。月に1回発行している「アトラス馬木便り」と、各人の生活の様子や健康状態を記載した手紙を家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に職員間でのミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書を書いてもらい、皆で検討し、改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 代表者は月に1～2回ホームを訪れ、利用者、職員と昼食をとりながらコミュニケーションを図っている。4か月に1回、代表者を交えた食事会を持ち、その際にも意見を伝えている。毎月のミーティング時に職員は意見を述べ合い、管理者は意見を総括して代表者に伝え、運営の質向上に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり、地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のレベルアップに努めている。職員それぞれが資格取得に努力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のグループホームの企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワークづくり相互訪問等の活動を通じてサービスの向上に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安な事、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声に出来る限り答えられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得していただいた上で信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応が出来る体制をとるようにしている。本人と家族の要求に違いがあったり、GHの入所とは違いがある際は別のサービスがあることを知らせ、相談にのっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支えたりして、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加していただき、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に、家族が困った時は職員が協力し、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告して理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望や意見を聞き入れ、外出先を選んだり、また個人的にも出来る限り望みが叶えられるよう支援している。歌や物事でもなじみの支援に努めている。  (外部評価) 馴染みの美容室に家族と同行してもらったり、近くのスーパーに買い物に行った時は声をかけてもらっている。利用者が入居するまでに培ってきたかけがえのない関係が途切れることがないように努めているが、少し離れた地域からの利用者が多く関係継続には苦慮している。	利用者は継続的に会っている人とは信頼関係が生まれ、心を開き、そこに大きな喜びと楽しみを得ることができる。定期的に傾聴ボランティアの導入を検討する等、新しい馴染みの関係づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加等を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何らかのトラブルもあり、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出きるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったり、医療機関に行かれた際においても面会に行くなどしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送っていただけるよう取り組んでいる。  (外部評価) 優しく名前呼びかけながら食事時や入浴時、散歩時などの何気ない会話の中で、思いや意向を聴き取っている。また話ができない利用者からは、表情から思いを感じ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族を交え、これまでの生活歴、好きなもの等、情報収集を行い入所されたからの生活に反映していけるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活レベルに応じて、無理なく生活できるようにしている。休みたい時はゆっくりしていただき、食事、入浴等出来る事はしていただいている。また、その日の変化に気付き対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画作成担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画の作成を介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聞きより良い生活ができるよう計画作成している。状態の変化に伴わない計画の立て直しをしている。  (外部評価) 各人の身体的状況や生活の様子が詳細に記録されており、毎月のユニット会議で全職員が意見を出し合い、ケアマネ、管理者、担当職員で会議を開き、介護計画を作成している。基本的には3か月ごとの見直しを行うが、状態変化によっては柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、一人ひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑、愛犬の飼育などがあり、個人の状態、要望に応じ柔軟に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験しよるこびや楽しさを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、定期健診や必要に応 じた受診を行っている。本人及び家族の意見や希望を 尊重し、かかりつけ医による継続的な医療を受けられ るよう支援している。  (外部評価) 主治医は週に1回往診に訪れ、24時間体制で連携を とっている。定期的な健診を実施し、健診結果は家族 に送付している。歯科医は往診が可能でその他の専門 医に関しては、主治医の指示に従い受診支援をしてい る。結核、インフルエンザなどの感染症に関しては、 主治医の指導の下、十分な対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づき を看護職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医 師との相談、連携を行い必要時は受診や看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された際は、小まめに面会に行くなど安 心していただけるよう対応し、家族と相談しながらま た早期退院に向けて病院関係者（医師、看護師）との 情報交換、相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期について、また重度化した場合につ いての話し合いを行っており、職員全員に習知してい る。終末期のあり方について、本人家族の希望を聞き、 施設で出来る事を医療機関とも相談し、チーム全 体で支援に取り組んでいる。  (外部評価) 重度化、終末期ケアに関しては、ホームでの支援が可 能であることを入居時に説明をしている。看取りが必 要になった場合には再度確認のうえ、同意書を得て家 族を含めた関係者で方針を共有している。またその際 にはマニュアルに沿って職員の学習を行い、ケアに当 たるよう努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し、実践力を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練などを行っており職員に皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方にも、避難訓練に参加していただき、災害時の協力はお願いしている。  (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の指導の下、夜間想定で実施している。火災報知器、緊急警報装置、スプリンクラーを設置している。職員の緊急連絡網を作成しているが、連絡の訓練を実施していない。	緊急時に備えて緊急連絡網で迅速、確実に連絡ができるよう定期的に訓練を行っておくことが望まれる。台所の食器棚などの家具類をしっかりと固定しておくなど、地震対策を講じておくことが望まれる。地域の自主防災組織と連携をとり、実践的な避難訓練に参加してもらおうよう、協力体制を築くことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活レベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねることのないよう言葉かけ、呼び名、敬語などにも配慮している。  (外部評価) 個人情報保護法について、職員は学習を行いその大切さを十分認識している。トイレ誘導等のプライバシーに関わることはさりげなく声かけするよう心がけ、プライドを傷つけることのないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心がけ、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、強制するのではなく本人の希望を優先し、一人ひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来る様、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意見が聞けない方は、家族から以前の好みを聞き、なじみの装いができるよう心がけている。また、ネイルサロンを開くなどおしゃれを楽しんでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの声を聞きメニューの参考にし、また外食等を行い食事を楽しんでいただけるよう配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。  (外部評価) 食前、食後の手伝いをしている利用者もおり、職員は無理なくしてもらおうよう配慮している。食事介助が必要な利用者には、さりげなく支援を行っている。食事中は楽しく会話がはずみ、家庭的な雰囲気づくりができています。栄養士が献立をたて、利用者によっては体調に合わせて食事摂取量を考慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人ひとりに応じ刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し週に3回の消毒も行っている。口腔予防の為、洗口液を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>1人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用い職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来、個々に合わせた誘導、声かけを行い、自立にむけた支援を行っている。尿意便意の訴えの出来ない利用者については、時間ごとの交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>各人の排泄記録が詳細に記録されており、トイレ誘導はさりげなく行われる等状態に合った支援が行われている。また、尿量を測定し排泄ケアに反映する等、根拠に基づいた支援ができています。便秘がちな人にはセンナ茶を飲むなど、できる限り自然な排便ができるよう取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動等を行い、便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望、タイミングは出来るだけ合やすよう配慮している。また、気持ちのよい入浴を楽しめるよう心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本的には週に3回の入浴支援を行っている。入浴の苦手な利用者に対しては、タイミングを見計らって入浴をしてもらうよう努めている。特殊浴槽を使用する利用者もおり、状態に合わせた入浴支援が行えている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個人の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを作成し、職員皆が習知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用等は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化が見られたときは、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来る事出来ない事を把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、トランプをしたり、気分転換を図れる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また、外出場所はそれぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会にも参加したりしている。	
			(外部評価) ホーム周辺の安全な場所やホーム内の庭を散歩し、気分転換を図っている。近くのコンビニに買い物に出かける利用者もいる。年間の外出計画を立てており、ホームの車で外食したり、季節に応じていちご狩りや菊花展などに出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しい物があれば購入できるよう支援している。現在、お金は施設管理にしており所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望の応じて電話や気持ちの伝達などを、その都度配慮し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時には速やかに消毒、掃除を行っている。温度、湿度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、めだかを飼ったりして生活感、季節感が感じられ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居間には季節を感じさせる手作りの作品が飾られ、手作りの大きな日めくりカレンダーを置いて、時の見当識に役立っている。ソファでゆったりと自由に寛いだり、テレビを楽しめるように工夫している。広いリハビリ室では利用者の機能の維持、向上ができるよう器具が揃えられている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごしていただいている。利用者同士で、仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人のなじみの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗無く生活していただけるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) ベッドと整理ダンスはホーム備え付けであるが、思いおもいの使い慣れた馴染みの調度品や置物、時計、カレンダーを持ち込み、自分の部屋らしく居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用して自立した歩行が出来るよう環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活を送れるよう、トイレ誘導用の貼り紙等工夫している。</p>	